

## 1. はじめに

旭川市は、北海道のほぼ中央、上川地方中部に位置する、市域面積 747.60km<sup>2</sup>、人口約 35 万人の中核市です。明治 35 年（1902 年）1 月 25 日には日本最低気温となる氷点下 41 度を記録するなど、厳しい気象条件下にありながら、道内各都市の中間地点ということもあり、古くから道路・鉄道網が発達し、北海道第 2 の都市として商業、医療のほか、最近では旭山動物園を核とした観光などの分野における道北の拠点となっています。

## 2 旭川駅周辺開発について

旭川駅を中心とする市街地は、忠別川と鉄道敷地によって南北に分断されてきました。こうした中で、昭和 62 年に行われた国鉄分割民営化を契機に南北分断の解消を柱とした市街地整備に対する機運が高まり、平成 8 年に鉄道高架、区画整理及び各関連街路が都市計画決定されました。これらの事業を総称して「北彩都あさひかわ」と呼んでいます。



写真 旭川駅周辺地区（北彩都あさひかわ）全景

## 3 各種事業の概要

### <旭川鉄道高架事業>

北彩都あさひかわ地区における象徴的な事業で、旭川駅を中心に線路を高架化するとともに、交差道路 8 路線及び駅舎を整備しています。鉄道高架は平成 22 年 10 月に開業し、平成 23 年 11 月には新駅舎がグランドオープンいたしました。新たに完成した高架下には、観光物産情報センターが設置され、本市を訪れる観光客に対し、新鮮で詳細な観光情報を発信しています。

### <旭川駅周辺土地区画整理事業>

鉄道高架事業と関連して、区画整理事業による道路をはじ

めとした都市基盤整備を進めています。また、新しい駅前広場は、新駅舎の南北において整備しています。特に北側の広場は、既存の広場や旧駅の敷地などを取り込む形で 22,000m<sup>2</sup>と従来の 2.6 倍に拡大され、交通結節点としての機能とともに、イベントや交流の場に活用できる広場づくりを進めます。

### <関連街路事業>

鉄道高架とあわせて、忠別川に架かる 3 つの橋を整備するもので、すでに 2 橋が完成し、残る 1 橋も現在施工中となっております。平成 23 年 4 月に開通した氷点橋によって、駅周辺と神楽地区の移動距離が大幅に短縮され、今後 2 地域の交流が一段と進むことが期待されています。

### <あさひかわ北彩都ガーデン>

交通利便性の高い駅を中心とした河川敷を含めたエリアで、近年道内で特に人気が高まっているガーデンを整備し、川とまちの一体感を出すだけでなく、都心部の賑わいづくりに結びつけることができるような仕組みを検討しています。



写真 旭川駅舎



図 駅前広場



写真 氷点橋



図 北彩都ガーデン

## 4 おわりに

この事業も、全ての事業が完了する平成 26 年度まで残すところ 2 年余りとなりました。今後、駅前広場が完成したとき、忠別川の河川敷に隣接する「川のある駅」は、都市と自然、そして人と人をつなぐ「出会いの場」として、多くの人に親しまれながらその歴史を刻んで行くことでしょう。